

変わりゆく教養

—21世紀の芸術・学問のあり方を考える

9/24(土) ~ 10/29(土) 13:00~14:30

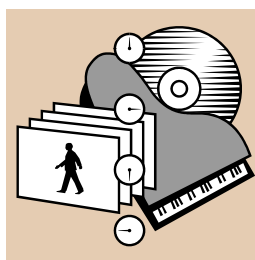
■場所/愛知大学 豊橋校舎 6号館610教室
■聴講無料 ■要申込 ■定員/150名

10月10日(祝)のみ6号館620教室

愛知大学では2012年より文学部に「メディア芸術専攻」を新設します。
この専攻ではメディアと芸術の理論と実践を総合的に学び、主としてパフォーマンスと造形芸術に関する教育・研究活動を行います。今年度の愛知大学豊橋市民大学トラムはこの新たな専攻に関連する内容の講座を実施します。

	講演日	テーマ	講師
1	9/24(土)	変わりゆく教養 知の変貌のただ中で	下野 正俊 (文学部准教授)
2	10/ 1(土)	世界のさまざまな英語(たち)	片岡 邦好 (文学部教授)
3	10/10(祝)	インターネットは音楽を殺すか SP、LP、CDそしてネット配信へ	林田 直樹 (音楽ジャーナリスト)
4	10/15(土)	学校教育と演劇 アウトリーチの実態と課題	吉野 さつき (ワークショップコーディネータ、 青山学院大学講師 他)
5	10/29(土)	ロシアにおける教育改革とロシアバレエの誕生	小野田 みどり (通訳、ロシアバレエ史研究) 青島 陽子 (文学部助教)

10月22日(土)はお休みです。



知の蓄積。
PROJECT
2012
AICHI UNIVERSITY
知の展開。

愛知大学
AICHI UNIVERSITY

豊橋市民大学トラム 愛知大学連携講座

変わりゆく教養
- 21世紀の芸術・学問のあり方を考える

参加申込書

必要事項をご記入のうえ、下記お申し込み先までFAXにてお送りください。
9月20日(火)頃、受講の可否を郵便でお知らせします。申込者が定員を超えた場合、抽選とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

フリガナ		年齢	性別
お名前		才	男・女
ご住所	自宅・勤務先 いずれかに をお付けください。 〒 -		
参加希望日	9/24 10/1 10/10 10/15 10/29 参加希望日に をお付けください。		
電話番号			
FAX番号			

申し込み用紙に記入された個人情報は、本講座の目的以外には使用しません。

お申し込み先

豊橋市教育委員会 教育部 生涯学習課

FAX : 0532 - 56 - 5105

(申し込み締切:9月15日(木))

お問合せ先

豊橋市教育委員会 教育部 生涯学習課

〒440-8501 豊橋市今橋町1番地

TEL0532-51-2849 FAX0532-56-5105

愛知大学 企画・広報課

〒440-8501 豊橋市町畑町1-1

TEL0532-47-4115 FAX0532-47-4149

【講演概要】

- 第1回 9/24 (土) 変わりゆく教養一知の変貌のただ中でー
下野正俊氏 (愛知大学文学部教員 哲学、メディア芸術専攻兼任)

大衆芸術と思われていたジャズやSFがハイカルチャーになったように、教養の内実は歴史的に変遷を辿ります。変化には一般的にポップからハイへ、という法則性があります。かくして大学で教育される学問内容は普遍的かつ不変的ではありません。文学部とて変化に対応しなければなりません。すると、われわれが「今現在において」どのような対応をして、どのような新しい学問、新しい教育を提供しなければならないのか、ということが問題となります。本トラムがその解答を探る場の一つになれば、と思います。

- 第2回 10/1 (土) 世界のさまざまな英語 (たち)
片岡邦好氏 (愛知大学文学部教員 現代国際英語専攻)

今世界には数えられないほどの英語の変種、つまり **Englishes** (複数) があります。同時に、イギリスやアメリカの英語を理想と考える時代は過ぎ去りつつあります。今世界にはどのような英語があふれ、どのように用いられているのかを紹介し、外国語として英語を学ぶ意義を問い直す機会にしたいと思います。

- 第3回 10/10 (祝) インターネットは音楽を殺すか
ーSP、LP、CDそしてネット配信へー
林田直樹氏 (音楽ジャーナリスト)

かつて音楽家は、自分たちの音楽を遠くへと届けるために、ラジオやテレビ、そしてLPやCDやDVDといった媒体に頼らなければいけませんでした。放送局やレコード会社は、音楽を運ぶためのメディア産業として、これまで数十年にわたり君臨し続けてきたのです。それはある種の「独占」だったかもしれません。

インターネットの登場は、そんな彼らの「独占」を根底から破壊しようとしています。ではインターネットは音楽の世界に今後何をもたらすのでしょうか？

●第4回 10/15(土) 教育とアートーアウトリーチの実態と課題ー

吉野さつき氏 (ワークショップコーディネータ、跡見学園女子大学講師他)

学校教育や社会教育など、生涯を通して人が「学ぶ」ということと、アート、芸術と呼ばれるものは、どんなふうに関わっているのでしょうか？

最近では、学校や福祉施設などに、演出家や俳優、音楽家やダンサーなどのアーティストが外向いて行う「アウトリーチ」と呼ばれる活動も盛んになっています。こうした現場の事例から、アートを通して得られる学びや、人との関わりの中で生まれるアートの可能性について、みなさんと考えてみたいと思います。

●第5回 10/29 (土) ロシアにおける教育改革とロシアバレエの誕生

小野田みどり氏 (ロシア語通訳者、ロシアバレエ史研究)

青島陽子氏 (愛知大学文学部教員 世界史学専攻)

来日公演でもおなじみのアメリカン・バレエ・シアター、英国ロイヤルバレエ団、パリ・オペラ座…これら世界屈指のバレエ団の今日の発展は、19世紀末ロシアが輩出したアーティストたちの活動の賜といっても過言ではありません。その背景は…。

確立されたバレエ・メソッドに基づき訓練施す教師陣、その厳しい訓練を経たダンサーたち、舞台を支える裏方が一体となり、素晴らしいバレエ公演は繰り広げられているのはご存じのとおり。さらには、長いバレエそのものの歴史、歴史的出来事が芸術をある方向へ向かわせた必然性、その礎に現在の名だたるバレエ団の公演は成り立っているのです。

時代の変化とともに世界の芸術界に影響を与えたロシア・バレエの魅力についてご紹介したいと思います。
